

1章：文化、異文化、多文化共生とは？

1. 「文化」とは？

まず、「文化」という言葉について考えましょう。

「文化祭」や「文化会館」などよく聞きますが、「文化」とは何でしょうか？

デジタル大辞泉という辞書には、「文化」とは・・・・・・・・・・・・・・・・

「人間の生活様式の全体。人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきた」と書いてあります。

要するに、「文化」とは、人間が日常的に取り組んでいることの全てです。ある意味では、一人一人の「当たり前」です。他の人と交流することによって、自分が持っている「文化」が変わったり、成長したりします。



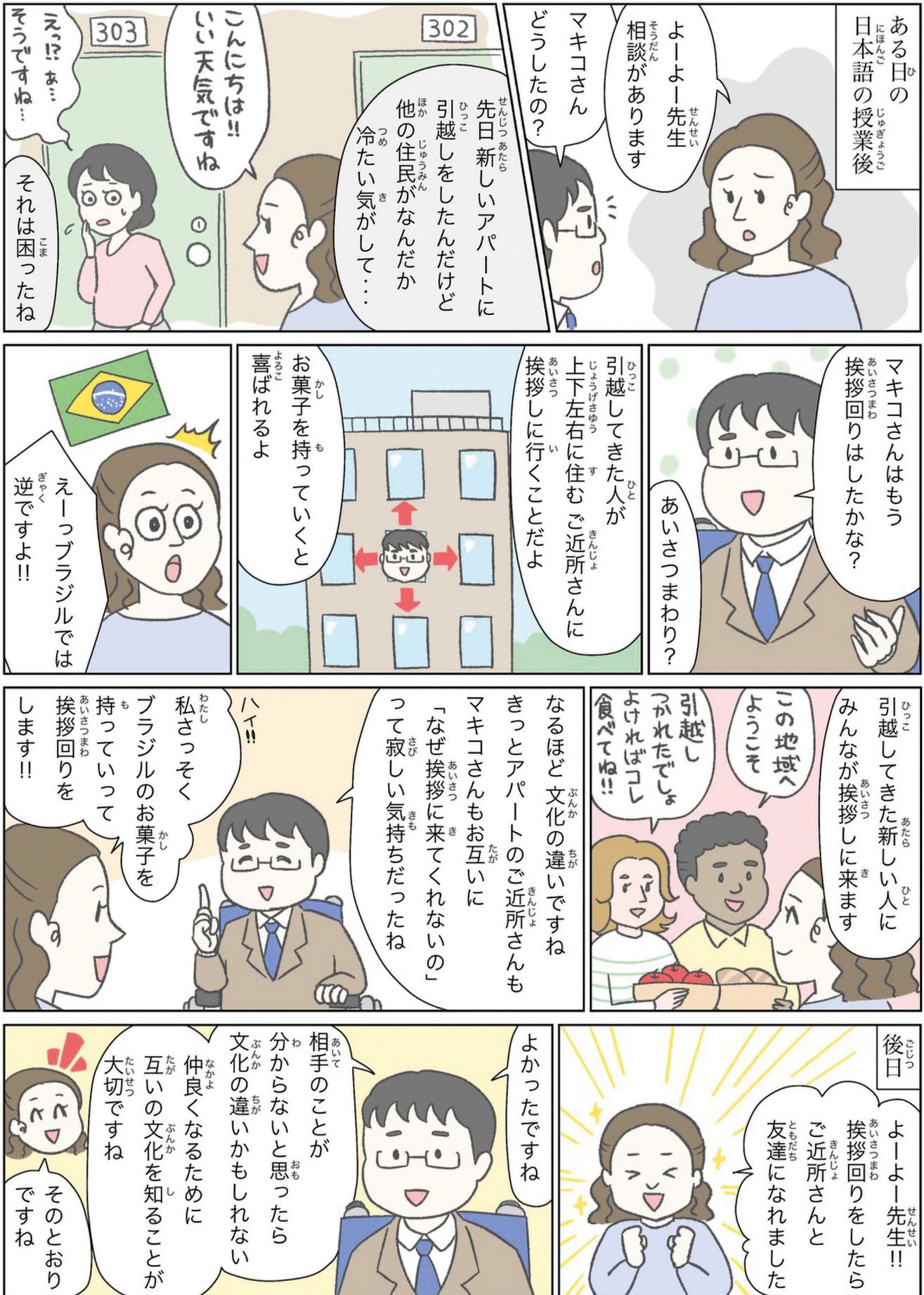
人はそれぞれの「文化」を持っています。多くの場合、「文化」とは自分が「当たり前」だと感じることです。あなたの文化とはなんでしょう？自分のことについて考えましょう。

生まれた場所		住んでいる場所	
趣味		好きな食べ物	
家で使う言語		学校で使う言語	
好きなファッション		得意なこと	

となりの人と比べてみましょう。相手の文化と自分の文化は、どこが違いますか？「外国の文化」をみたら、自分の文化との違いはすぐ分かるかもしれません。しかし、同じ教室にいる友達の「当たり前」も、自分と違うところがきっとあります。このことを「異文化」と言い、「異文化」を持つ人同士が会話すると「異文化コミュニケーション」が起こります。異文化コミュニケーションとは必ずしも外国語で話すことではありません。日本語で話しても、「当たり前」のことが違う人同士が会話すれば、異文化コミュニケーションになります。

豆知識(2)
カナダには、家、学校、職場で使う言語が3つとも違うという人がたくさんいます！

2. 「異文化コミュニケーション」を考えてみよう!



一人一人の「当たり前」は違っているときがあります。ここでは、どんな違いがありましたか?

3. 「多文化共生」とは？

愛知県では、「^{たぶんかきょうせいしゃかい}多文化共生社会」とは「^{こくせき}国籍や^{みんぞく}民族などのちがいに^{りかい}かかわらず、^{ぶんかてきはけい}すべての人が互いの文化的背景や考え方を理解し、ともに安心して暮らし活躍できる社会」としています。

つまり、多文化共生とは、「異文化」を持っている人々が、互いに仲良く同じ地域で暮らすことです。

100年前の日本には、外国人がほとんど住んでいませんでした。しかし、今はいろいろなところで外国につながる人が活躍しています。日本国内や愛知県でも外国人の人口が少しずつ増えています。

次の表は、外国人の数を示しています。



豆知識(3)

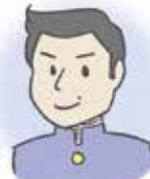
愛知県の外国人の人口は280,912人で、県の総人口に占める割合は、3.74%でした(2022年6月末時点)。東京に次いで、全国で2番目に外国人の人口が多いです。

豆知識(4)

「在留外国人」とも言います。3か月より長く日本に住んでいる人がこの数に含まれます。旅行などで、短い間日本にいる外国人は含まれていません。

そもそも「日本人」と「外国人」をどう考えたらいいかな？

国籍は日本だけれど、日本語が話せないし、「日本人」だと言われると違和感を覚える人もいます。



ひろ

僕なんかそうだよ。日本国籍を持っているし、顔や名前から見ると「日本人」と思われるけど、13歳まではフィリピンに住んでいて日本語が全くできなかった

私にはそういう従兄弟がいるよ。ペルー生まれペルー育ちで、スペイン語しか話せないけど、日本の国籍を持っている！



かおり

両親が国際結婚したことによって、2つの国籍を持って、「日本人」でありながら他の文化にルーツがある人もいます。

外国籍だけれど、生まれも育ちも日本で、日本以外の国に住んだことがない人がいます。

みずも



わー、本当にいろんな人がいる！やっぱり顔や言語などで「日本人」とか「外国人」とか、決めちゃいけないよね

私はそういう人の一人。国籍は韓国だけれど、生まれた時からずっと日本にいる。韓国語は少しできるけど、韓国に行くくとむしろ「外国にいる」気がする



そんさん

4. 多文化共生を進めるには、みんなの協力が必要！

この教材に登場する3人に聞いてみました。「日本で「当たり前」の壁にぶつかったことはありますか？」ある人が考えている「当たり前」は別の人の「当たり前」ではないということが、答えから分かるでしょう。



振り返り

- ひろ、ピア、よーよーの話で、「当たり前」の違いはどこにありましたか？
- あなたの周りに、「当たり前」だと考えていることが違う人はいますか？